



9月29日付の福井新聞一面に、「県内で広がる『年内入試』」という記事が掲載されました。この記事に目を留めた人も多かったのではないのでしょうか。本校の3年生の中にも、授業や一般入試に向けての受験勉強と並行して、年内入試対策に励んでいる人がいます。そこで、今回の「進路ニュース」では年内入試を一から取り上げます。

① 年内入試とは？

年内入試とは、一般的に総合型選抜や学校推薦型選抜（指定校推薦・公募推薦）など、試験の実施から合格発表までが年内に完了する大学入試方式のことです（ただし、国公立大学で大学入学共通テストを課す方式の場合、面接などは年内に実施していても合格発表は2月になるケースもあります）。主に9月～11月に行われ、学力試験だけでなく、面接・小論文・高校生活での活動実績などが評価されます。

② どれくらい広がっているの？

以下は、近年における、推薦入試による入学者数の推移です（令和6年11月27日付けで文部科学省が公表した「令和6年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」より）。一部、共通テスト後に面接などを実施する国公立大学のデータを含むため「推薦入試による」と記載しましたが、年内入試の広がり方が概観できる資料と言えるでしょう。

【総合型選抜】

年度	国立大学	公立大学	私立大学	合計
R4	5,439人	1,294人	78,175人	84,908人
R5	5,744人	1,445人	85,204人	92,393人
R6	5,981人	1,611人	90,928人	98,520人

【学校推薦型選抜】 ※共通テスト後に面接等の選考日を設けている国公立大学のデータも含む。

年度	国立大学	公立大学	私立大学	合計
R4	11,450人	8,823人	207,184人	227,457人
R5	12,015人	9,083人	203,375人	224,473人
R6	12,242人	9,267人	193,040人	214,549人

近年、推薦入試による入学者数は増加傾向にあります。特に私立大学では、総合型選抜の入学者数が急増しています。一方、学校推薦型選抜では、国公立大学の入学者数は増加しているものの、私立大学ではやや減少しています。

③ なぜ、年内入試の定員が増えているの？

年内入試の定員が増えている背景には、大学が多様な能力を評価する方向へシフトしていることや、少子化による受験者数の減少により、早期に学生を確保したいという大学側の意図があります。

④ どんな対策をしたらいいの？

年内入試では、志望理由書・面接・小論文・プレゼンテーション・グループディスカッションなどが課されます。志望理由書や面接では、「志望動機」「大学で学びたいこと」「卒業後の進路」などを、自分の言葉で明確に伝える力が求められます。

小論文やプレゼンテーションでは、志望分野に関する話題や社会問題などについて、論理的に考えを述べる力が必要です。ディスカッションでは、他者と協働する力も問われます。

1・2年生のうちから、オープンキャンパスはもちろん関連イベントやセミナーに参加し、自分にしかない経験を積んでおくことや、自分の進路選択の動機を具体的に言語化することが大切です。また、学内外の探究活動にも積極的に取り組みましょう。



⑤ 注意してほしいこと

志望動機が明確でない人、自分の考えを言葉で表現するのが苦手な人が、「チャンスの1つ」として安易に年内入試にチャレンジすることはお勧めできません。また、大学入試全体としてはまだまだ一般入試の方が中心である現在、受験生の力が最も伸びる秋に、年内入試対策に時間を割くことにはリスクも伴います。自分の適性と入試のシステムをよく見極め、先生や保護者とよく相談して、自分に合った方式を選ぶようにしましょう。